

2025年6月3日

各位

沖縄県労働金庫

企業版ふるさと納税（地方創生応援税制） さくら再生・普及推進事業セレモニーへ出席しました

沖縄県労働金庫(理事長 東盛 政行)は2024年10月に地域活性化を目的として、名護市へ企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）を活用し300万円の寄附を行いました。

ろうきんの理念である「働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関」を踏まえ、「安心して働ける活力あるまちをつくる事業」への寄附を指定し、名護市はそれを受け、観光振興の取り組みである多様な観光客の受入れ体制を充実させるため、「さくら普及・推進事業」として、名護・さくらの会が主となり「なぐうら桜街道（国道58号）」に15本のカンヒザクラを植樹しております。

今般、カンヒザクラの植樹を記念し、名護市よりセレモニーへご招待いただきました。

今後とも、当金庫は企業版ふるさと納税をはじめとした様々な取り組みを通じ、地域活性化に寄与してまいります。

記

1. 日 時 : 2025年5月27日(火)
2. 場 所 : なぐうら桜街道
3. セレモニーの様子



(前列右より) 名護・さくらの会会長 儀保 充 様
沖縄県労働金庫 理事長 東盛 政行、名護市長 渡具知 武豊 様
(2列目右より) 沖縄県労働金庫 名護支店 支店長 安里 和樹
沖縄県労働金庫 理事 石川 功至、沖縄県労働金庫 常任推進委員 中山 哲

さくら再生・普及推進事業

令和6年10月1日～令和7年3月7日

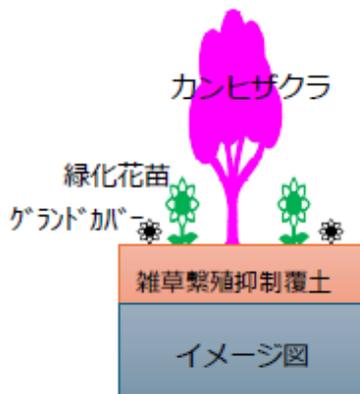
目的：名護市のシンボル「カンヒザクラ」の桜木の植樹、土壌改良、防風対策などの環境整備を行い、「カンヒザクラ」の生育・普及に繋げ、地域ブランドとしての強化を図ることを目的とする。

効果：「カンヒザクラ」の植栽・整備を行い、景観向上に努めることで、名護市のイメージ向上、名護市への滞在促進など観光振興に繋がる。

実施内容：植栽樹内の土壌を改良し、「カンヒザクラ」を強固な支柱で固定して植樹します。「カンヒザクラ」の周囲は、緑化花苗としてハイビスカスを植え付けます。雑草対策として、雑草繁殖抑制に効果がある「再生資源含有防草材」を覆土し、グランドカバーとなる^{ほふく}葡萄植物を植え、景観を向上させて雑草の繁殖を抑制し、防草効果を高め、除草作業の負担を大幅に軽減させます。植栽後のメンテナンスとして、年2回実施する「さくら開花促進プロジェクト」での施肥作業に加え、台風や自然災害時の対策や見回り点検作業など日常的管理を名護・さくらの会が実施します。

実施場所：桜並木の実現と「さくらを通じての市内外の親善と観光資源に資する」目的で平成19年名護・さくらの会20周年記念イベントとして開催された、なぐら桜街道の一部区画（城区遊歩道内）の「カンヒザクラ」植栽樹15ヶ所。
（別紙植樹位置図参照）

予算：名護市企業版ふるさと納税 3,000,000円
寄付者：沖縄県労働金庫 様





着手前 既存桜木なし



完了
カンヒザクラ 樹高：2,5m~3m
三脚支柱
緑化花苗：ハイビスカス 0,5m、
ガザニア、イタドリ・アメリカンブルー
雑草繁殖抑制覆土：NONOCA



3ヶ月（88日）経過の様子

以上